

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

|       |                         |      |      |        |            |         |   |  |   |    |     |           |
|-------|-------------------------|------|------|--------|------------|---------|---|--|---|----|-----|-----------|
| 事務事業名 | リニア推進対策事業               |      |      |        | 財務会計上の位置付け | 会計      | 款 | 項  | 目 | 細目 | 細々目 | 19予算額(千円) |
| 部等名   | 企画部                     | 課等名  | 企画課  |        | 包含する細々目    | 1       | 2 | 1  | 9 | 11 | 8   | 475       |
| 政策    | 4暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり |      |      |        |            |         |   |  |   |    |     |           |
| 施策    | 44 交通機関と道路の充実           |      |      |        |            |         |   |  |   |    |     |           |
| 実施区分  | 継続                      | 会計   | 一般会計 | 環境調整会議 | 不要         | 関連計画条例等 |   | 第五次全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」、大深度地下の公共的使用に関する特別措置法 |   |    |     |           |
|       |                         | 事業期間 | \$50 | 年度～    | 年度         |         |   |  |   |    |     |           |

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

|   |  |                      |                |            |          |                   |
|---|--|----------------------|----------------|------------|----------|-------------------|
| 目的の記述                                   | 対象(人や物、自然資源など)   | 対象の大きさを表す対象指標名と単位    | 対象指標の数値        |            |          |                   |
|   | 飯田下伊那郡市民(以下「郡市民」という。) 国、県、鉄道建設・運輸施設整備支援機構(旧日本鉄道建設公団)及び東海旅客鉄道株式会社のリニア中央新幹線計画関係機関(以下「関係機関」という。) リニア中央新幹線計画路線 | 郡市民数(人)              | 現状又は19年度見込     | 23年度又は終了年度 |          | 23年度以前に終了は終了年度とする |
|   |  |                      | 175533         |            |          |                   |
|   | リニア中央新幹線計画路線延長(km) (計画延長東京～大阪間:約500km)   | 現状又は19年度見込           | 23年度又は終了年度     |            |          |                   |
|   |  | 500                  |                |            |          |                   |
|   | 意図(成果は何か、対象をどうかえるか)  | 成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位 | 成果指標の数値(実績・目標) |            |          |                   |
| リニア中央新幹線の早期実現に向け郡市民の関心を高める関係機関への働きかけを行う | 単年度参加者数(試乗会+講演会+シンポジウム)/郡市民数(%)  | 18目標                 | 0.4            | 最終目標       |          |                   |
|   |  | 18実績                 | 0.3            | 19目標       | 0.4      |                   |
|   | 23目標   | 0.5                  | 23実績           |            | 最終目標達成年度 |                   |
|   | 夏休みリニア親子試乗会応募数(通)  | 18目標                 | 350            | 最終目標       |          |                   |
|   |  | 18実績                 | 291            | 19目標       | 350      |                   |
|   |  | 23目標                 | 350            | 23実績       |          |                   |

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

|        |   |   |   |  |
|--------|---|---|---|--|
| 手段の記述  | 事業の全体概要(補足説明)   | 具体的活動内容(やり方、手順、詳細)  | 活動量を表す名称・単位   | 活動量の値  |
|        | 飯田市における首都圏への交通機関は脆弱である。リニア中央新幹線は、環境負荷も少ない新時代の高速度交通機関と言える。当市と首都圏の地域間交流を活発にし、地域の魅力をより発展させるため、高速交通体系の整備とリニア飯田駅設置の実現を推進する。リニア中央エクスプレス建設促進期同盟会事務局は飯田下伊那15市町村の自治体、経済団体等が協力して、リニア中央新幹線が飯田下伊那地域を通過し、当地域に駅設置の実現を図ることを目的にした団体であり、当地域の中核都市である飯田市が事務局を担当している。 | 18年度の実績   | リニア試乗会の実施、リニア同盟会総会、リニア各種シンポジウム・大会等へ参加。リニア啓発活動(啓発グッズ・パンフレットの配布)リニア中央新幹線計画関係機関との打合せ、関係機関への働きかけ。 | リニア試乗会開催数<br>関係組織の総会・シンポジウム参加回数(回)<br>リニア啓発グッズ・パンフレット配布数(ヶ)<br>関係機関との折衝回数(回) |
| 19年度計画 |   | リニア試乗会の実施、リニア同盟会総会、リニア各種シンポジウム・大会等へ参加。リニア啓発活動(啓発グッズ・パンフレットの配布)リニア中央新幹線計画関係機関との打合せ、関係機関への働きかけ。 | リニア試乗会開催数<br>関係組織の総会・シンポジウム参加回数(回)<br>リニア啓発グッズ・パンフレット配布数(ヶ)<br>関係機関との折衝回数(回)                  | 試乗会<br>総会参加<br>配布数<br>折衝回数   |

|            |            |           |           |
|------------|------------|-----------|-----------|
| <金額の単位:千円> |            | 18決算額(見込) | 19予算額(当初) |
| 事業費        | 特定財源       |           |           |
|            | 国庫支出金      |           |           |
|            | 県支出金       |           |           |
|            | 起債         |           |           |
|            | その他        |           |           |
|            | 一般財源       | 424       | 475       |
|            | 事業費計(A)    | 424       | 475       |
| 人件費        | 正規職員所要時間   | 18年度 350  | 19年度 350  |
|            | 臨時職員等所要時間  |           |           |
|            | 人件費計(B)    | 1,252     | 1,252     |
|            | トータルコストA+B | 1,676     | 1,727     |

|             |  |
|-------------|--|
| 特定財源内訳や補足事項 |  |
|-------------|--|

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

|       |                                |                       |           |      |      |    |
|-------|--------------------------------|-----------------------|-----------|------|------|----|
| 目的の記述 | 結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的          | 上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位  | 上位成果指標の数値 |      |      |    |
|       | 市民、市内滞在者、財産、事業者が、便利で安全に移動ができる。 | 市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路) | 現状値       | 52.3 | 19実績 |    |
|       |                                |                       | 20実績      |      | 21実績 |    |
|       |                                |                       | 22実績      |      | 23目標 | 45 |
|       | 市内の移動に不便を感じる市民の割合(交通機関)        | 現状値                   | 37.6      | 19実績 |      |    |
|       |                                | 20実績                  |           | 21実績 |      |    |
| 22実績  |                                |                       | 23目標      |      | 35   |    |

| この事業を開始したきっかけ   | 事業を取り巻く状況の変化   | 事業に対する市民や議会の意見   |
|---|--|--|
| 第4次全国総合開発計画において「多極分散型国土」の形成が提唱され、また、全国新幹線鉄道整備法に基づき中央新幹線が基本計画路線として決定されたことから、ルートの選定、飯田駅の設置について気運が高まり、その実現に向けて、飯田市が中心となって推進を図っていくことになった。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・H17.3国土交通省実用化技術評価委員会にて「基盤技術は確立した」と評価されている。</li> <li>・愛知万博(H17.3～9)にて、「超電導リニア」の技術が世界に発信された。</li> <li>・H18.3山梨リニア実験線での累積走行距離が50万キロに到達した。</li> <li>・H18.9にJR東海が山梨リニア実験線の実験線延伸(先行区間の18.4kmから当初計画された42.8kmへの延伸)や新車両、最新の電気設備等の更新を平成28年までに行うと発表し、これを受けH19.1に国土交通省において、それらの事業の承認を受けた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試乗会参加者からは、飯田にリニアの駅が設置されることを望む声が多く聞かれる。</li> <li>・夏休み親子試乗会の全参加者から好評いただいでおり、飯田下伊那にリニアが必要と感じた参加者の割合は約8割と非常に高い。</li> </ul> |

## 【See】18年度の振り返り

| 目的<br>妥当性<br>評価 | この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？    | (評価) 結びつく (その理由)   | 有効性<br>評価 | 成果をさらに向上させる余地はありますか？                    | (評価) 余地がある (その理由)     |
|-----------------|------------------------------------|--------------------|-----------|---|-----------------------|
|                 | 対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？            | (評価) 必要性がない (その理由) |           | 廃止・休止した場合の影響はありますか？                     | (評価) 影響あり (その理由)      |
|                 | 意図の見直しの必要性はありますか？                  | (評価) 必要性がない (その理由) |           | 他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？ | (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) |
|                 | 市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？ | (評価) 必要ある (その理由)   |           | 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？               | (評価) 不可能 (その理由)       |
|                 |                                    |                    | 公平性<br>評価 | 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？             | (評価) 妥当である (受益者とその理由) |

## 【Plan】改革改善

| 今後の事業の方向性   | 何を、いつまでにどうするのかの改革改善案  |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 終了<br><input type="checkbox"/> 廃止<br><input type="checkbox"/> 休止<br><input type="checkbox"/> 目的見直し<br><input type="checkbox"/> 別事業に統合<br><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善<br><input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 | <p>実施年度 <b>具体化</b></p> <p>負担金については、17年度より5%削減して運営している。整備が進捗しない状況下ではあるが、新幹線の開通した他市の例のように、デメリット(スロー効果)もありうると思われる。よって、リニア推進事業と併行して、当地域の魅力を引き出す施策の推進も大切である。この地域にあった発展の方針を多角的に検討していく。</p> <p>また、中央新幹線は「全国新幹線鉄道整備法(基本計画)」により定められている路線であり、平成2年から実施されている地形、地質等に関する調査項目以外の残り4項目の調査の実施等と飯田駅の設置について、国、JR等関係機関に働きかけを行う。</p> |
| 上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法   | H19年度の負担金の減額について検討したい。親子試乗会以外での子ども達のイベント等開催できないか。   |

### 【補足事項環境側面】

|                            |        |                 |
|----------------------------|--------|-----------------|
| (1) 環境影響評価の必要性判断           | 必要性がない | (2) 必要性な場合の実施事由 |
| (3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？ |        |                 |

### 【指摘事項】

|                  |  |
|------------------|--|
| 施策マネジメント会議       |  |
| 施策評価会議           |  |
| 第5次基本構想基本計画推進委員会 |  |